

# 新・京都議定書目標達成計画の素案

## 省エネ法改正、環境省 経産省 新エネルギー導入支援など

新たな京都議定書目標達成計画の全体像が見えてきた。環境省と経済産業省の諮問機関は14日、現行計画の見直しに向けた最終報告素案を審議。省エネ法改正による規制の強化、新エネルギーに対する導入支援策の充実、中小企業の排出削減対策の強化などの追加対策・施策を大筋で了承した。次回12月21日の会合で22年度の数値目標を含めた最終報告を固め、20年3月をめぐりに新計画として閣議決定する。

温室効果ガス排出量の伸びが著しい民生部門関連では、省エネ法改正により、中小規模(2000㎡未満)の建物まで省エネ措置の届出義務を拡大するとともに、大規模(2000㎡以上)建

物への対策を強化。共同住宅の専有部分、戸建住宅について、建築設備を省エネ評価の対象に追加した上で、住宅・建築物ともに、建物外皮と建築設備を総合化した省エネ評価手法の開発を推進する。産業・エネルギー転換部門関連では、太陽光発電・太陽熱利用・風力発電などに対する国の導入支援策を充実。さらに、自然公園規制をはじめとする土地利用規制との円滑な調整を推進する。また中小企業の排出削減設備導入に当たっては、資金面の公的支援を充実。業界ごとに策定する自主行動計画に参加している大企業が、中小企業の排

出抑制対策を技術面・資金面から支援した場合、その削減量を自主行動計画に反映できる仕組みも整える。上下水道での対策も推進。上下水道では省エネ・高効率機器の導入、小水力発電、太陽光発電など再生可能エネルギーの活用など、下水道では施設の新エネルギー対策、下水熱の有効利用などを図る。分野横断的な取り組みとしては、▽自主行動計画の拡大・強化▽中心市街地の整備・活性化などによる都市構造・地域構造の見直し▽施設緑化、

### 改正建基法の構造関係規定見直しの動きが浮上

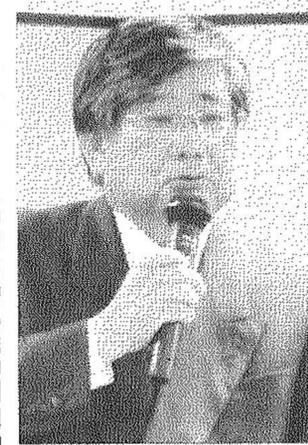
### 官民連携の検討組織設置

6月20日に施行された改正建築基準法の構造関係

係規定を、現場の実態に合わせて見直そうとする動きが浮上してきた。国土交通省所管の日本建築防災協会(建防協、岡田恒男理事長)が、構造関係技術基準の在り方などを話し合う官民連携の検討組織を設置。12月中旬に初会合を開き、20年3月までに一定の成果をまとめる方針だ。

検討組織の名称は「建築構造基準フォロー支援委員会」。東京大学大学院の久保哲夫教授を委員長とし、日本住宅・木材技術センター、日本建築士事務所協会連合会、日本建築構造技術者協会、日本建築行政会議、建築研究所などが委員を派遣。国土交通省や国土技術政策総合研究所からも担当者

### 県鉄構工業会の相良忠志理事長



全構協組織体制問題 不透明と強調

県鉄構工業会 会長は、全国鉄構工業協会の相良忠志理事長(全構協)の組織体制の在り方に

「異論も多い」と述べ、依然不透明な状況にあることを強調した。14日開いた全体会議の中で説明した。全体会議では、各委員会活動の報告に先立ち問題について相良理事長が説明し、来年1月22日開催予定の臨時総会で、執行部から一定の方向性について、道筋が示される見通しがあることを報告した。全構協の組織体制の改正問題は、建築基準法改正に伴う指定確認検査機関としての独立性について問われているものとみられ、迅速な確認業務の推進等の目的からも、協会では年明け早々にも方向性を決めていきたい考えだ。

私の生まれは、熊本県の旧宇土郡三角町(現在は宇城市三角町)である。ちょっと紹介すれば、三角西港は明治三大築港の一つで、明治20年にオランダ人技術者ローウェンホルスト・ムルドルの設計で建設され、現在では国重要文化財として港町三角のシンボルとなっている港だ。この地で10才(小学3年)まで過ごしたが、港は単なる岸壁にしか見え、むしろ天草一号橋(天門橋)建設の方に目を奪われていた。

港町三角に生まれたにもかかわらず、「釣

り」にはほとんど興味がなかった。その当時、レジャーで釣りをする人もほとんどなく、一回だけアジゴ釣りをした記憶があった。ただ、これがその後の病気のきっかけになる。...

市)の頃である。何やら小難しい理論構築や既に忘れた微積分を使う羽目になり、頭はフニャフニャ状態。気晴らしに、妻と2人の娘

を連れて、子供用の竿を買って、近くの池に魚釣りに出掛けた。これがビギナーズラックで、立派なフナが釣れた。次の機会には、子供の要望であらかじめ水槽を買って、釣れたフナをスーパリーの袋に入れて持ち帰り、

田池に足繁く通ってはブルーギルを釣っていた。専門知識のない私にとっては、海釣りなど考えも及ばなかった時代である。

海釣り(岸壁釣りに限定)に走り出したのは、やはり三角がきっかけである。3年前のある日、妻と三角までドライブに出掛けた。そこで見たのは衝撃的な光景で、三角西港のあの岸壁に釣り人が連なって釣りをしていたのである。「あっ、昔アジゴ釣りをしたっけ」。思い出したが最後の鹿兒島勤務になった折には、家族で蘭牟

い込み、勇んで三角まで乗り込んだ。これが病気の始まりで、三角大矢野、そして地元三池港へと通い出した。今は、妻の方がサビキ釣りのプロとなってしまう、正直頭が上がりたくない。私といえば、悔し紛れに投げ釣りに励んでいる具合だ。寒くなるが、串木野、坊津、鹿兒島港、桜島港にも出掛けた。カワハギ、アラカブ、欲ばかりが先行するこの頃である。

(国土交通省九州地方整備局鹿兒島国道事務所 所長)



高木 章次

## 釣りの病

環境省は、石綿飛散防止セミナーを20年1月から2月にかけて全国4会場で開催。建物解体時や災害時の石綿飛散防止対策などを解説。福岡会場はパピオン24(福岡市博多区)で1月31日に開催。定員は100人で受講料無料。

### 石綿飛散防止セミナー

### 来月31日、福岡市で

環境省は、石綿飛散防止セミナーを20年1月から2月にかけて全国4会場で開催。建物解体時や災害時の石綿飛散防止対策などを解説。福岡会場はパピオン24(福岡市博多区)で1月31日に開催。定員は100人で受講料無料。

### 前迫光雄氏が死去

左官業界発展に尽力

長年にわたり本県左官業界の発展に尽力してきた元鹿兒島県左官業協同組合理事長の前迫光雄氏が、12月17日死去した。

83歳。鹿兒島市の平安祭典鹿兒島会館で18日、告別式が執り行われ、多くの弔問客が最期の別れを惜しんだ。

同氏は、昭和56年12月から平成5年12月までの12年間にわたり、理事長(3代目)として組合をけん引。その間、左官業界の社会的地位向上や組合員の技術向上などに尽力。多大な功績を残した。

委員会が説明する。問い合わせは、全国環境保全推進連合会・石綿セミナー係(03・5684・5730)まで。

建設業の詳しい情報は...  
<http://www.kc-news.co.jp>  
 業者格付・県市町村予算・発注予定工事等々 情報は盛りだくさん!  
 お問い合わせ: 099-222-6123